

令和2年度と令和4年度において管内で連続発生したHPAIの防疫対応の比較と今後の取組

東部家畜保健衛生所
○志賀 彩加 古屋 聡子

要約

令和4年度、県内6農場で高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が発生。内3農場は密集地域で連続発生し、令和2年度にも同様の発生。令和4年度の防疫措置は令和2年度と比較し早期に完了。令和2年度の防疫作業の主な課題は、焼埋却に時間を要したこと及び連続発生による資材不足。埋却地の対策として、家畜保健衛生所は農業事務所と連携し、地盤状況の助言を得ながら埋却地の現地調査を実施。その結果、令和4年度発生時には、事前に埋却地の地下水位が高いという問題点を把握し、埋却地の作業動線や埋却方法を整理していたため、埋却溝の深さ約1mという悪条件でも速やかに対応することができた。資材の不足については、密集地域に備蓄拠点を新設し、ペールの備蓄を増量。今後も防疫計画の更新、備蓄資材の確保を進めるとともに、HPAI発生防止に向けて飼養衛生管理の巡回指導及び生産者主体の自衛防疫組織の支援を継続していく。

はじめに

令和4年度、本県では4市町、6農場でHPAIが発生し、約62万羽の殺処分が行われた。そのうち、3農場（A、B、C）は密集地域であり、1月22日から1月28日にかけて連続発生した。この3農場は、令和2年度にもHPAIが発生した農場だった。今回は、この3農場に焦点を当て、令和2年度と令和4年度の防疫対応の比較および今後の取組について報告する。

	発生日	発生場所	種類
1例目	R4.11.26	香取市	あいがも
2例目	R5.1.03	旭市	採卵鶏
3例目	1.22	匝瑳市(A農場)	採卵鶏
4例目	1.27	匝瑳市(B農場)	採卵鶏
5例目	1.28	匝瑳市(C農場)	採卵鶏
6例目	2.10	横芝光町	あひる

・4市町6農場 約62万羽の殺処分
・うち3農場は密集地域で連続発生し、R2年度にも発生

図1 令和4年度の県内HPAI発生事例

発生の状況

1)農場の状況

各農場は採卵鶏を10万羽以上飼養する大規模農場であり、鶏舎構造は、A農場はセミウィンドウレス鶏舎、BとC農場はウィンドウレス鶏舎である。

農場は養鶏密集地域にあり、水田に囲まれている。直線距離2km以内のところに調整池があり、令和2年度には野鳥の糞からHPAIウイルスが検

出された。

表1 農場概要

年度	A農場		B農場		C農場	
	R2	R4	R2	R4	R2	R4
事例	5例目	3例目	10例目	4例目	8例目	5例目
所在地	匝瑳市		匝瑳市		匝瑳市	
種類・用途	採卵鶏		採卵鶏		採卵鶏	
殺処分羽数	165,126 関連7,190	138,184	276,398	233,167	255,659	241,525
鶏舎構造	セミウィンドウレス 高床式開放	セミウィンドウレス	ウィンドウレス		ウィンドウレス	
通報日	R3.2.4	R5.1.21	R3.2.10	R5.1.26	R3.2.7	R5.1.27
通報理由	死亡羽数増加		死亡羽数増加		死亡羽数増加	
疑似患畜判定	R3.2.4	R5.1.22	R3.2.11	R5.1.27	R3.2.8	R5.1.28

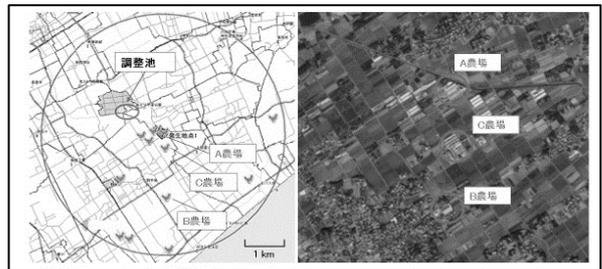


図2 農場の立地

2)飼養衛生管理

令和2年度のHPAI発生後、各農場は鶏舎外の集卵ベルトへのネット設置や、壁の小さな隙間の補修等、飼養衛生管理の改善に取り組んだ。令和4年度における国の疫学調査では、A農場とC農場において防鳥ネットの破損や鶏舎の壁の隙間が一部見られたという指摘はあったものの、各農場とも大きな指摘事項はなく、令和2年度からの改

善が見られた。



図3 飼養衛生管理の改善

発生から防疫措置完了までの経過

各農場のHPAI発生から防疫措置完了までの経過について、令和2年度と令和4年度を比較すると、A農場は33日間から9日間、B農場は47日間から16日間、C農場は50日間から15日間へと日数が短縮され、令和4年度は令和2年度と比べて迅速に防疫措置を完了することができた。これは、令和2年度の発生後、防疫作業の課題点の整理に取り組んだことへの効果が表れたものと考えられる。

表2 防疫作業の概要

事例	A農場		B農場		C農場	
	R2	R4	R2	R4	R2	R4
殺処分羽数 (速報値)	165,126 関連7,190	138,184	276,398	233,167	255,659	241,525
防疫措置開始日	R3.2.4	R5.1.22	R3.2.11	R5.1.27	R3.2.8	R5.1.28
殺処分終了日	R3.2.7 R3.2.17	R5.1.25	R3.2.18	R5.2.2	R3.2.18	R5.1.31
防疫措置完了日	R3.3.8	R5.1.30	R3.3.29	R5.2.11	R3.3.29	R5.2.11
発生から防疫措置完了までの日数	33日	9日	47日	16日	50日	15日
自衛隊派遣	無	無	有	有	有	有
処分方法	焼却	埋却 焼却	埋却 焼却	埋却 焼却	埋却 焼却	埋却 焼却

令和2年度の課題点とその取組

令和2年度の防疫作業の主な課題は大きく2つある。1つ目は焼却と埋却に時間を要したこと、2つ目は資材の不足である。

1) 焼却及び埋却

令和2年度、殺処分は14日間で終了したものの、埋却完了までは50日間もの日数を費やした。これは、周辺住民の反対により埋却予定地を使用することができず、代替の土地の確保に難航したことが原因であった。また、発生が相次いだことにより、焼却処理量が大量となり時間を要した。この経験から、HPAI発生に備えて埋却地情報の

収集と焼却施設の確保の重要性が再認識された。

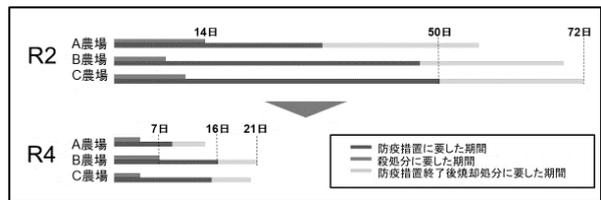


図4 防疫作業日数の比較

埋却地の事前確認への取組みとして、令和3年度から県農業事務所と連携し、埋却地の現地調査を実施している。地盤状況に精通した農業事務所の専門的な助言を得ながら、より現状に即した問題点を把握することが可能となった。



図5 県農業事務所と連携した埋却地調査

埋却地調査や令和2年度の経験から、3農場のある水田地域は地下水位が高く、深く掘ると水が出る恐れがあるという問題点があった。そこで、埋却溝の深さを約1mとし、埋却地の作業動線や埋却方法を整理し、防疫計画に反映した。

これらの取組により、令和4年度発生時は、埋却溝の深さ約1mという悪条件でも、速やかに埋却対応を実施することができた。

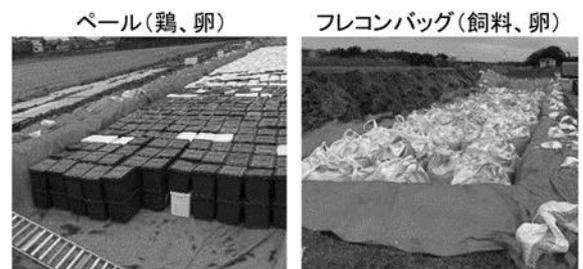


図6 水田地域における埋却

また、焼却について、令和2年度発生時に3農場が利用した焼却施設は5施設だったが、焼却施設の利用拡大に向け、市町村や民間施設と調整を重ねた結果、令和4年度では7施設に増加した。現在は、県として公営5施設、民間7施設の計12施設の利用が可能である。

2)資材

令和2年度の課題の2つ目は、資材の不足である。特にペールは、県内の11事例の発生に加え、全国的なHPAIの大発生や新型コロナウイルス感染症の影響により供給が不足した。

発生に備えた資材確保のために、資材の備蓄拠点を4施設から6施設に増やした。養鶏密集地域に新たに設置した備蓄拠点にはペールを備蓄しており、令和2年度以前のペールの備蓄は、県全体として約15,000個だったが、約50,000個に増量した。これは50万羽規模の殺処分に対応している。



図7 養鶏密集地域に新設した備蓄拠点

まとめ及び今後の課題

防疫措置を迅速に完了させるためには、事前の準備が大切である。令和4年度は令和2年度と比較して迅速に防疫措置を完了させることができたのは、防疫計画の随時更新、埋却地の確保、焼却施設の利用拡大、防疫資材の備蓄等の取組が功を奏したものと考えられる。今後は、発生リスクの高い地域における発生予防の管理指導が課題である。

HPAIの発生予防にむけては、定期的な農場巡回による飼養衛生管理の指導を引き続き実施していくとともに、鶏舎の入り口対策などの飼養衛生管理基準項目以外の対策についても取り組んでいく。具体的には、ドローンを活用した鶏舎の入り口の確認や埋却地の現地調査を検討している。

また、県は野鳥のモニタリング検査を実施しているが、令和3年度から調査地点を、匝瑳市を含めた5か所に拡大しており、今後も継続していく予定である。さらに、養鶏地帯の匝瑳市では生産者の自衛防疫組織が主体となり、発生地域の池や川にテグスの設置を進めている。家畜保健衛生所としても勉強会等の機会を通じて、飼養衛生管理やHPAIに関する情報提供等の支援を続けていく。

謝辞

本県のHPAIに係る防疫対応について、多大なる御協力及び御支援をいただいた関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 佐藤沙樹:管内で連続発生した高病原性鳥インフルエンザと防疫対応について、令和3年度千葉県家畜保健衛生業績発表会集録(2021)